

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):法学部第2類(公法コース)・三年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:香港大學(The University of HongKong)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) **3.公務員** 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

香港大學(The University of HongKong). Visiting/Exchange Programme.

留学した動機

香港という都市に憧れて.

政治・経済・文化・歴史・国際性など香港には様々な魅力が詰まっています. 地上の喧噪と高層ビルの静謐さと, 様々なものが揃う香港という環境で勉強ができることに憧れ留学を決意しました.

また, 私自身もともとアジアでの留学に興味があったことや, 大学が英語を用いていたことも大きく影響しています.

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[3]年の[5]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/留学(両方*留学先での**第一学期は休学, 第二学期は留学**)

③留学期間: 2013年9月 ~ 2014年6月 学部/修士/博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[6]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[4]年の[4]月頃に(行った/行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[28]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[14]単位
留学後の取得(予定)単位[42]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

学部に進学する前から留学をしたいと考えていましたが, 就職活動などが4年生で控えていることを考え三年生の時期に留学することに決めました.

留学準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学手続きに関してですが、東大と香港大学とが正式な留学協定を結んだのは2014年の1月からでしたので、2013年留学分は私費留学生(Visiting Student)扱いとなり手続きなど全て自分で行う必要があり大変でした。

まず留学開始一年前より個人で情報を収集し始め、香港大学の留学生担当の方とメールで連絡を取りながら手続きを進めていました。また、東京大学と香港大学との交換留学協定が結ばれたことを受け交換留学としての入学にも申請し、同時並行で手続きを行っていました。なんとか私費留学生としての入学手続きを留学開始一ヶ月前に終えることができたのですが、入学後、第二学期が始まる際に交換留学生として登録し直す必要がありこちらも苦労しました。

手続きにあたってのアドバイスですが、しっかり書類を読む、の一言に尽きます。こういう大事な手続きは全て書類に書いてあることがほとんどです。ただ、困った時の為に留学先大学に留学生担当の方がいないか調べ、連絡を取っておくのも良いかも知れません。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザを申請しました。申請先は香港政府なのですが大学を通しての申請となるので必要書類を記入して留学先大学に送った他、個人で手続きをする必要は有りませんでした。かかった時間に関しては、留学開始1週間少し前にビザが届くといった状況だったのでできるだけ早めに申請する必要があると思います。

ただ、私は私費留学生としての入学手続きに付随したビザの申請だったので、交換留学生として行かれる方はもう少し余裕が有るかもしれません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断は、事前に歯科検診を受けました。予防接種は受けていません。

常備薬などは少し持って行った程度で、あとは現地の方にどの薬が良いのかお聞きして揃えました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIUの海外留学保険に入っていました。実際に医者にかかったこともあったのですが、問題なく使えました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

東京大学での定期試験に関してですが法学部は試験が例年9月に行われているので留学前に定期試験を受けることができず、出席などの点数はどうなるのかなども含め、来年再受験する方法を確認してから出国しました。帰国前に学部の方とやり取りし再履修登録を済ませ、無事に再試験を受けることもできました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学先大学の香港大学は主に英語で授業を行っています。その英語に関しては留学先大学からTOEFLのスコアが要求されていたこともあり、それを満たすように勉強していました。

現地の言葉である広東語ですが、事前により勉強をしておらずそのことを非常に後悔しました。英語が通じる事が多いとはいえやはり現地のコミュニティに溶け込むには広東語が必要です。余力が有れば勉強しておくことを強くお勧めします。

私は、留学中に王家衛という香港の映画監督の作品(『阿飛正傳』『花樣年華』など)を観て広東語に興味を持ち、そこから勉強を始めました。広東語がどんなものか想像もつかない方はまず香港映画などを観てみてください。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ORRnetというところを通じて在留届をインターネットで提出できます。緊急時に備えて登録されることをお勧めします。実家から通っておらず一人暮らしをしている人は荷物・家具の管理など苦労すると思います。わたしは一度引き払って実家に帰り、帰国後また東京に引っ越しました。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- *中国行政
- *国際法
- *現代中国社会
- 中国語
- *香港行政
- *比較憲法論
- *東アジア国際関係論
- *中国外交

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

予習が主です。香港大学での授業は、講義と、その内容をもとに行うチュートリアルという院生のチューターを中心とした少人数制クラスで構成されていることが多く、後者では予習を前提に議論など行うことがあるので、していないと苦労します。

もっとも学部によっても異なるようで、社会科学系の中でも法学は3時間の連続講義(もしくはゼミ形式)が多く、講義とチュートリアルという組み合わせは主に政治学系に多かったです。

また、課題も多いので講義室にいる時間より図書館にいる時間の方が遥かに長くなります。

様々な国から来ている教授が多いです。多様な、個性豊かな講義を行ってくれることと思います。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

香港大学では一学期あたり24単位から36単位の取得が求められます。一つの授業が6単位有るので、一学期につき4~6つほど受講すれば良いということになります。

集団でのプレゼンテーションも多かったため、授業時間以外にも大学に来て準備をしたりする時間が多かった印象を覚えました。

④学習・研究面でのアドバイス

授業ごとに進め方が全く違うので最初のガイダンスに出て全体像を把握しておくことをお勧めします。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

日本語でも慣れていないことは外国語でも難しいです。外国語のせいなのか、を考えてみるとすっきりすることがあります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

第一学期は私費留学生ということで寮の選考から漏れ、普通のアパートでルームシェアをしていました。留学先大学の担当の方にお尋ねしながら現地の不動産屋さんを通して見つけました。時々シャワーが壊れ冷水を浴びなくてはならない時期があったりと大変なことも有りましたがルームメイトに恵まれ非常に楽しい時間を過ごすことができました。家賃は東京と同じくらいです。

第二学期からは大学の寮に入りました(Jockey Club Student Village III というところ。私がいた頃は Residential Colleges と呼んでいました)。29階建ての大きな建物で、一人部屋を頂いたこともあり安穩な暮らしを送っていました。家賃はかなりお安く、独り部屋でも一学期 15 万円ほどだったと思います。こちらは大学を通して申し込みました。両方とも光熱水費は家賃に含まれていました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

生活環境は、個人差がかなり有ると思うのですが私にとっては快適でした。周りにいた他大学より来ている日本人留学生の中にも我慢できないといった人はいなかったようです。

かなり暑い時期が続くのですが建物の中は冷房で冷えきっていて、夏でも軽い上着を持っていないと図書館の中などで風邪を引きます。冬は意外と寒く、コートを着る日も有りました。春は湿度が高いので、部屋の中の結露やカビなどに注意が必要です。また、どんよりとした日が続くことも有るのでそれにめげない精神も必要です。

空気は綺麗とはいえませんが人体への影響は感じませんでした。個人差が有ると思いますが、必要なら現地でマスクを調達できます。

それと、夏は蚊が非常に多く、また日本のものより遥かに強力です。脳炎になって倒れた友人もいたので(幸いなことに無事でしたが)、気をつけてください。

大学は坂の上にあります。長崎や尾道出身でもない限り香港の坂の多さには苦労するかもしれません。

交通機関は非常に発達していて、基本的にはどこへでも行くことができます。時間さえ有るなら電車で一日かけて北京まで行けます。

香港市内は基本的に地下鉄とバスでの移動になるかと思えます。新しい地下鉄路線の開通工事も行っていて近いうちに香港大学駅というものもできるそうです。あれができるとうかなり便利になると思います。

二階建てバスなど香港の交通機関は乗っているだけでも楽しいことが多いです。是非乗りこなせるようになって下さい。ミニバスと呼ばれる半タクシー・半バスのような乗り物も有るのですがあれは広東語ができないと難しいかも知れません。最初のうちは香港人の友人の助けを借りて乗ってみて下さい。機動力が有るので以外と便利です。

タクシーは安いので重宝します。意外と一番乗ることになるかも知れません。ただし広東語しか通じないことが多いので、せめて自分の目的地は広東語でいえる、せめて書ける、くらいにはしておきたいところです。自分の家の住所などを書き留めた紙など財布に入れておくといざというときに役に立ちます。

また交通系 IC カードの Octopus Card(八達通)というものがあります。基本的にこれで何にでも乗れます。買い物にも便利です。学期が始まると学生用のものに申請できて、あれが有ると地下鉄が半額になります。お薦めです。

食事は何でもあります。多少ローカライズされているのですがどこの国の料理でも食べることができます。香港は食の都です。是非楽しんでください。大学の食堂もお薦めですが、時間があればレストランを巡ってみるのも楽しいです。

お金に関してですが、私は基本的にクレジットカードからキャッシングをしていました。HSBC で口座も開設しましたが大学とのお金のやり取りで使用したくらいです。最低存款額というものがあり(口座にもよりますがだいたい 13 万円くらいです)、何ヶ月かに渡り平均預金残高がそれを下回ると口座維持費が月ごとに徴収されたりするので注意が必要です。大学内の支店で学生用口座を開設すれば最低存款額は無いとも聞きました。

香港の銀行での口座開設にあたっては、日本からは住所証明として免許証もしくは住民票(コピー不可。三ヶ月以内に発行されたものに限る。)などを持って行く必要が有ります。携帯電話ですが、私は深水埗にある中古市場で本体を手に入れ、SIM カードをコンビニで買い使っていました。通信用料ですが、コンビニでチャージでき、その分使えます。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良いです。ですが、東京にいたときと同じような注意が必要なのは変わりません。

人の多いところ(特に市場など)ではスリが多いようですので気をつけてください。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

私は実家から香港に飛びましたので Peach 利用で関西国際空港~香港国際空港、往復 5 万円ほどです。授業料は半年分を全額支払い、半年分は交換留学として学費免除(東京大学に支払い)でした。教科書代は東京にいたときとあまり変わりませんでした。

・毎月の生活費とその内訳

HKD は香港ドルです。

食費 HKD3,500

交通費 HKD500

娯楽 HKD1,000

計 HKD5,000

・留学に要した費用総額とその内訳

計 200 万円弱。といっても私は私費留学生として在籍していた期間私費で学費を払っていましたのでその分が半分弱を占めています。自炊が難しかった分、食費が高くなってしまっているのですが、その他の生活費に関しては東京にいたときとさほど変わりませんでした。

奨学金を頂いており、親からも援助してもらっていました。そのおかげで非常によい一年を過ごすことができました。大変感謝しています。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

長島雅則奨学金基金奨学金を受給していました。

学部を通じて申し込みました。支給額は香港で月 7 万円です。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

香港では主に勉強を中心に過ごしていました。香港大学で日本語を学ぶ人たちの集まりに参加させて頂いたり、香港中文大学という大学にお邪魔することもありました。

週末は課題や予習が終わってればルームメイトと出かけていました。深圳やマカオにまで出かけることも多かったです。

長期休暇ですが、香港大学にはリーディング・ウィーク(reading week)という復習の為の期間が各学期一週間ほどあり、留学生達はその期間中旅行をすることが多いです。香港に留まり勉強してもよし、香港を堪能してもよし、出かけてもよしです。私は第一学期では中国雲南省を旅行し、第二学期は勉強していました。冬休みの間は母国に帰ったりする人もいますが、私は香港に留まっていました。

旧正月(だいたい二月頃くらい)は中国文化圏で大きなお休みの一つです。この間は香港で異文化を楽しむことをお勧めします。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生用に語学の活動も行われていますし、課外活動も多かったです。サポート体制は整っているかと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

基本的に夏場は屋内の冷房が強いです。風邪をひくこともありますから気をつけてください。

図書館などの学習施設はかなり整備されています。スポーツジムなども充実していたようです。お手洗いや清潔なところが多いです。

書店は大学内に有ります。小さなスーパーマーケットも入っています。ATMなども多いです。

食堂もいくつかあり、大学内に寮が有り生活している人が多い関係で朝早くから夜遅くまで土日も含めて営業しているので不便しません。

WiFiがあるのでノートパソコンさえ有れば困りません。学習施設内に備え付けのデスクトップも有ります。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合) 留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合) 留学が就職に対する考え方に与えた影響

就職における希望は留学前より持っており、留学中に細かいところでは考え方が変わりましたが、あまり大きく変わりませんでした。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

履歴書に書けるようなことにこだわらず、様々な経験を得るように心がけました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の意義ですが、強くなったなど我ながら思います。変わったというより、強くなりました。今の自分は今までの自分とは違うんだ、といった感じにはならず人間案外変わらないものだなどと逆に少し驚きましたが、今までの自分の延長線上で強くなったと感じます。

私は出身が兵庫県なのですが母校には東京大学を受験する者が私以外にいないといったような状況で、ましてや海外など遥か彼方の世界でした。なので留学というと大きな話で、出国してから最初の頃は案の定不安になり、到着後など大学で手続きをしなければならないことや不動産の契約を行わなければならないことなどに頭がとられどうしようかと思うほどでしたが、最後の頃にはこういったことを特別なことだとも考えることは無く難なくこなすことができるようになっていました。慣れただけだといわれるとそうかもしれませんが、やはり慣れからくる強さは経験に裏打ちされたもので悪いものでは無いと思っています。

長期休暇を使い、2回に分けて合わせて計3週間ほど、中国大陸を電車で旅したりもしましたが、その土地その土地で新しい習慣や文化などに慣れ日々楽しく過ごすことができていました。

留学中に大学で得た知識も非常に重要でこれを軽視するわけではありませんが、それ以上に経験が私にとっては意味を持っています。

②留学後の予定

復学し公務員試験を見据えた勉強を始めようと考えています。

また、東京大学での同級生が4年生になっており、就職する友人もいるので彼らと残り少ない大学生活を楽しめたら、と思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

初志を貫徹する必要は無いと思いますが、初心を忘れずに、全力で楽しんでください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

留学先大学より頂いた「留学の手引き」のような冊子が非常に役に立ちました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。